

集落ぐるみの金網柵設置によるイノシシ被害対策

～南部町柏尾地区の事例～

1 取組経緯

南部町柏尾地区（69戸うち農家33戸）では、イノシシによる被害が以前からあり、個人毎にトタン等で侵入防止を実施していたが、十分な効果が得られない状態であった。集落内でイノシシの被害が深刻な課題となってきたので、集落ぐるみで効果的な対策を実施した。

2 取組内容

- (1) 効果的な対策として、金網柵を導入している近隣の伯耆町を視察して情報収集を行った。（平成19年4月：地元、町、県）。
- (2) イノシシの生態・効果的な柵設置方法について集落で研修会を実施した（5月）。
- (3) 集落全体での柵設置ルートについて、現地確認をして計画ルートを決定した（6月）。
- (4) 金網柵の共同施工を実施した（10月上旬：総延長1,800m）。
- (5) 完成後に柵の維持管理について現地研修を実施した。また、柵の維持管理体制づくりや捕獲の強化について検討した（10月下旬）。



▲県や町と一緒に集落の対策チームで計画を検討



▲現地を歩いて効果的な柵設置ルートを決定



▲共同作業で金網柵を設置

中山間地域直接支払制度（国補1/2）事業費：約4百万円



▲設置後には柵の維持管理について研修

3 取組効果

- (1) 金網柵設置後はイノシシの被害は認められなくなり、高い防止効果と評価している。設置コストが高いこと、維持管理が大変なことが問題点である。
- (2) 地元で新たに2名が狩猟免許取得し捕獲体制も強化された。
- (3) 柵の維持管理や見回りの必要性について理解が深まり、当番を決めて点検や草刈りをするようになった。
- (4) 取組が周辺地域に広がり、近隣集落にも集団的な柵設置が拡大してきた。